校友時報

第55号
発行所
秋田県立能代高等学校新聞部
電話254番
編集人 佐藤 満
印刷所 大勝堂印刷所

萬年筆
メガネ
カモヤ
畠町通り
TEL 464

佐藤三郎君に正式決定
奈良前團長辞任す

◇…十九日奈良応援部長辞任に伴い佐藤正博委員長漸次兼任となつて来…◇
◇…た応援部長のポストはようよう佐藤三郎君に決り、応援部活動は排…◇
◇…球対能代工業定期を期に正常な活動に乗り出して来た。…◇

應援團長問題もめる

十八日朝の委員長就任、役員任命を終つて昼の第一回応援練習に於ける応援部長不信任にからむ紛糾問題は十九日第二回応援練習平穏裡に終つた後の第三回生徒委員会で応援部長奈良久孝君の辞任受理が決まり、リコール提唱者と奈良君との和解なり、漸次委員長兼任となつて来た部長は、予算問題で早期に正式決定の要に迫られ佐藤三郎君の就任受諾で感情問題にまで発展した部長問題も漸く解決に至つた。

佐藤新部長談

奈良君の後を受けて応援部長を務める事になつたが、任務遂行の為に諸君の強固な団結と絶大の協力を望む。花見期間中の各試合には全員の応援参加を望む。

解説　ほしい三年生の團結
佐藤内閣・早々の黒星

もめた部長問題も解決し、生徒会の関心はこの成行と予算問題に焦点とする様になつたが、解決までの三年生間の不和からの紛糾に一、二年生は随分不満をもらしている。佐藤正博内閣成立早々の大黒星であつたが、この原因は要約次の様に考えられる。

①新内閣のポスト決定が非常に遅れて、問題の応援部長などは総会の直前に委員会の承認が行われ、一般生徒との連絡が密でなかつた事

②奈良君自身に対する不満をもつ者が居る事

直接の動機は②だが、これは前委員長としての奈良君の業積に対するもので、こゝでそれが出たという形なのだが。問題が応援練習時の為、猛烈な論争となつたものである。その場は委員会において討議すべきであるという一部三年生の声にそのまゝ散会し、十九日の委員会はこの原因と責任問題を取り上げ文論争を展開したが、別掲の委員会報告通りの結論を見た。

然し一応問題は解決し、応援部長は委員長が漸時兼任することになつたのだが、いずれ正式決定しなければならなくなつた所へ又、副委員長兼企画副部長の入院あり、迫り来る運動シーズンに備えての応援団の団結と予算問題に委員長は手を上げ、専任団長の早急な任命が必要となつたので再燃したが適当人物がこの紛糾問題の直接関係者外から見つけ得ず、全員一致協力の約束のもとに佐藤三郎君が応援部長の任に当る事になつた。前に述べた様に生徒会執行部の甘い観測と、一部三年生の場所を見誤つた不見識が野次を伴つた結果の紛糾であり、三年生の反省と団結を強く要求されている。

応援団幹部紹介

▼三 年
佐藤(三) 佐藤(泰) 佐藤(正) 小西 長内 小山内 八柳 小野 成田 保坂 新川 岩沢 笹村 鎌田 田中

▼二 年
小山 田中 大谷 野口

二年生を準幹部として入れたのは、二年生とも良く相談して、応援をよりよく、又二年生にもよく応援というものを認識させ円滑に行う為である。

論説
新學期に際して

いよ〳〵今年は我が校創立以来三十周年を数える。その間多くの先輩諸氏の努力と奮斗によつて、今日見るような全県に誇り得る能代高校が出来たのである。

さて卒業生を送つて、何んとなく淋しくなつていた本校にも、入学の希望に胸をふくらませた新入生諸君を迎えて、本校も大いに活気づいて来た。そして各部共にいつせいに活動を始めたのであるが毎年毎年、本校の生徒はネバリがない、耐久力が少ないと良く云われるのだが(主に運動関係)……残念ながら、本校の各部としてはそれをハツキリ否定する意気は見受けられない様だと云わなければならない。それなら、何故各部が毎日〳〵汗を流して精進して居ながらにして覇気が無いと云われるのであろうか?その原因は各々上げられるであろうが、多くの良い意見を耳にして、悪い所を直しながら練習に精を出す事を望むものである。

しかし、それにもましてそれらの各部が、快心の働き、練習をする事が出来る様に応援をする事が大切だと思う。何も試合の時にばかり声をからしてするのだけが大事なのでなく、普段の声なき応援が一番大切であり大きな効果があるのだと思う。各部応援団の効果ある働きを望む。

又、学力方面においても毎度の事であるが「高等学校の予備校化」と云う事が云われているが、もちろんこれは望ましい現象でない。だが、大部分の、は進学を前程として入学したのである。その入学の学力向上のために、大学入試を目標として勉強するのが当然だと思う。つまり限度のものだと思う「青雲の志」と云う言葉があるがそんな事は明治時代の立身出世主義の表われだという人もいるだろうが、この「青雲の志」の意気でみがあつてこそ、始めて我が校の学力向上が可能だと云えるのではないだろうか。

さてもう一度三十周年の事についてだが、多彩な行事があるだろうが、それが生徒会の自主的な力でもつてスムースに、かつ楽しく運営してもらいたいものである。

創立三十周年の今年こそ、幾多の困難に打ち勝つて来た能代高校を、一段と発展せしめる一つの足場としようではないか。少し気の長い話だが、四十周年を目標として、一段一段と石を積んで行くように我が校の「十ケ年計画」と云うようなものはどうだろうか……

本校の教頭先生であつた宮腰先生が五城目高校へ御栄転なされたが、全校生徒としては、三十周年である年に先生が転校なされたのはまことに残念な事だと思う。先生が本校に来てから十数年になるそうですが、その間の先生の努力そればまことに大きいものだと思います。こゝに全校生徒一同の地新聞部は、先生の御健康を祈ると共に絶えなる敬意を表するものであります。 (Y)

宮腰先生　五城目高校長に榮轉
本校に多大の貢献

本校宮腰前教頭先生は県教育庁の教員移動発令のもとに四月一日付で県立五城目高校に御栄転なされた。先生は本校に在任中、英語科主任として又山本郡英語研究会の副会長として努力された。先生と十三年間も一緒に生活されて来た相沢先生に寄稿を願つた。

宮腰先生の事
相沢先生

十年を一昔というが、私は宮腰校長先生と十三年間も一緒に同じ校舎に生活して来た様にはどうしても思われない。それは丁度日支事変に引続いて、大東亜戦争に学徒出陣、学徒動員、敗戦、校舎再建とめまぐるしい毎日の連続であつたから、十三年間も案外短かく三年間位にしか感じないわけである。この間に、あらゆる角度よりあらゆる機会に宮腰先生の真の姿に接して来たのであるが、名門宮腰家に一人息子として生れ、厳格な教育を受けて生育した関係上万事に誠実をもつて当り、しかも事をなすには慎重かつ几帳面で、自分の正しいと信じたことはどこまでもやり通す強い意志をもつていられた方である。又身体がそうである如く態度も重厚で、どんなことでもめつたに顔に出すことはない程の度量をもつていられ、又自分の考えていることは決して軽はずみには発表しない点は、以前より校長先生としての貫録が充分に備つていたのである。特にどんな小さいことでも軽くあつかわない態度は必ずや将来先生をして大成させるものとして大なる期待をかけているわけである。

願わくはこの重厚と誠実さをより一層発揮され、将来郷土能代の教育によき指導者として帰能されることを祈つて宮腰先生の紹介を終ります。

補植今月下旬に

創立三十周年記念行事の一つとして去年秋、桧山町鶴沢に約一町六反歩の土地に松、杉を植えたがその補植として今月下旬晴天の日を見はからつて行う事に決つた。

全校生徒に表札配布

このたび本校では、全校生徒に表札を配布することにした。これは生徒の家の住所をはつきりさせる為、又本校生徒としての自覚と誇りを生徒に与えるための意図のもとによる。

合唱團結成延期

【既報】能代市内高校合唱団は、かねて本校音楽教諭山崎先生の手によつて準備されていたが、去る四月二十三日本校においてその結成準備会が開かれる予定であつたが、北高校の連絡不徹底のため延期となつた。

豫算審議始まる
運動部は大方決定 ―生徒会―

三〇年度生徒会予算審議委員会は四月二十八日より始まる予定であつたが、排球部の東北一周試合旅行の為、排球部のみだが二十七日より繰上げて審議が始められた。

本年度の予算収入は会費八二万円、入会費の二万六千円、前年度繰越金八万一千五七五円で九一万七千五七五円となつて居り、前年度決算額は七六万八千二三一円で収入、支出とも一五万一千五四三円の増加を見せている。

現在までの決定したのは次の各部で、上の数字は企画部原案

排球部 五五、四三〇
硬野部 一三八、一八〇(定員制による旅費要求、増二一、四八〇円)
硬野部 五二、五五〇(硬野同により増一七、五〇〇円)
庭球部 五〇、六七〇
体操部 三九、六七六
卓球部 三〇、九九〇
スキー部 四三、四六〇
柔道部 六七、二〇〇
剣道部 三四、四八〇
(文化部)演劇部 一三、七四〇

委員会では企画部原案作製後の試合出場に於ける選手定員数通知による旅費の訂正による外は企画部原案が多数で通過した。運動部の方は競技と籠球がまだ決まつていないが、本日中には文化部も殆と決定されるものとみられ、今週中に委員会から総会に附議される公算が大きくなつた。

絶体額少い生徒会予算を相手に例年通り目下四苦八苦、深刻な様相を呈している。

企畫部長に村井(3D)君
生徒会役員決まる

本年度第一回生徒総会は、四月十八日体操場に於いて行われ、佐藤委員長は総務部、運動部、文化部の正副部長を次のように決定した。(上が部長、下が副部長)

生徒会委員長 佐藤 正博
同 副委員長 小野 勝英

▼総務部
企画部 村井忠治 小野勝英
会計部 畠山 紘 片谷雄芳
風紀部 杉崎孝雄 熊谷倫子
厚生部 鵜木重悦 田中健三
応援部 佐藤三郎 佐藤泰信
書 記 小西吉則 浦野誠悦
図書部 平沢鋼一 工藤真也

▼文化部
弁論部 佐藤 博 大谷博雄
新聞部 小山鈴彦 加賀英樹
文芸部 佐々木懸治 小川 倖
科学部 安藤尚雄 梅田祐吉
音楽部 神尾昌毅 竹内 弘
演劇部 木内義明 渡辺光男

▼運動部
硬式野球 今野勘一 斎藤 誠
軟式野球 滝川宗重 青山正道
庭球部 大谷勝夫 佐藤利夫
籠球部 桂田 勇 浅野礼孝
剣道部 鎌田吉郎 柳谷源太郎
柔道部 保坂秋徳 石戸信三
スキー部 成田啓造 伊藤 昇
競技部 荒川 稔 金子秀雄
体操部 鈴木清重 田村一雄
卓球部 桂吉康治 金子尚春
排球部 田畑良三 高橋克寿

各部顧問決定

▼総務部
(企画)山崎、高橋(会計)熊谷(風紀)小山(厚生)相沢(応援)大原(図書)佐々木

▼文化部
(弁論)山田、鈴木(文芸)白鳥菊地(科学)柴田(雄)(音楽)山崎(美術)上野(新聞)島津(演劇)柳谷、鈴木

▼運動部
(硬野)小笠原、松井、吉武(軟野)柴田(悦)、吉武(庭球)塚本高橋(籠球)藤井、高橋(剣道)船山(柔道)柴田(重)(スキー)熊谷(競技)大山(体操)中村、伊勢(卓球)本庄、大沼(バレー)大原、武田

澁点

▼今年度も女子生徒十数余名が入学した。だいたい昨年、一昨年と同数のようである。最初に共学実施以来半数に減少し、今日にとどまつている。来年度もまたそんなに異ならないであろう。このように減ることは学校全体としても喜ばしい現象ではない。本校における共学も、全体のクラスに分けるようにしたらどうかと思う。▼一時男女共学の問題も相当に論議されたが、今日ではそんなに云われていないようだ。が本校では未だ〳〵徹底しているとはいえないと考えられる。▼ちよつとしたエピソードであるがこんな話を先頃耳にした。▼自分は、授業時間女生徒と一緒のため、いうにいわれぬヒケメを感ずる……。これはその人を考えの相異であるが、もつとこういう考えの人がいるのではないでしょうか。▼女子生徒の校内外クラブ活動も少ないとおもう。▼それは女生徒の入部希望者が足りないことにも依るのだろうが。▼それにしても遺憾である。▼今年は本校の創立三十周年を迎えるが、これまで百名近くの女生徒がこの学校で学んで来たが、私の知る範囲で入部した者は三十余名である。▼クラブ活動の意義を再確認するならば、我々はクラブ活動に入ることによつて学問と社会との結合性を知つたり、人と人との感情的なふれあいを体験したりして、人間形成に相当の修養があろう。本校のクラブに於てはどの部の部を除いて殆んどのクラブが部員不足に悩んでいる。本校のクラブ活動一大発展のために、より多くの人が部に入ることを熱望する次第である。

春の装いは
技術本位の ニ―ぜ ひ―
佐藤写真館
大町 TEL132

◇各種受験参考書
◇雑誌・学習書
鴻文堂
富町

時計の御相談に
優良店会の店
時計の ウエキ
畠町 TEL1306

排球部員募集
全国制覇を目指す我が部へ
希望者は部室まで